

別紙 関連団体資料(理窓会関連団体規程第4条)

(注) この資料は関連団体資料(個人メールアドレスおよび事務局住所を除く)として公開します。
この資料のほか、写真などを加える場合は、PDF 3頁まで関連団体資料といたします。
なお、この資料は、関連団体登録資料として保管しますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

関連団体資料

(理窓会関連団体規程第4条)

(2023 年度)

団体名称	理窓サイエンスカフェ	創立	2014	年から
代表者	植木 キク子	関連団体役職	会長	mail
		卒業	1963	年(西暦) 理 学部 修 物理 学科
事務局	木ノ切 恭治	関連団体役職	事務長	mail
		卒業	1965	年(西暦) 理 学部 応用物理 学科
送付物の際 事務局住所 任意				
会員	11 名	会員構成	会長：1 事務長：1 幹事：9名	2024年は若返りのため増員計画
執行部	名称 例.役員会	幹事会(サイエンスカフェ)	11 回/年	定期総会 年ごと 不定期 無
	執行部構成 例.会長のほか副会長等	会長：植木、事務長：木ノ切、会計：沖谷、募集配信：真田、会場受付：宮崎他		
会費等	2000 円/年	年会費無、サイエンスカフェ開催時に参加者全員が支払う参加費で会を運営する。		
会報等	11 回/年	毎回、幹事会議題、次回ポスター、当日講演会ポスター、当日プログラムを発行する。		
備考				
団体活動報告	(基本方針) 当会は会員だけの会合ではなく、会員が世話役となって当会卒業生とその親族、友人、神楽坂商店街の人々の自然科学・人文科学の知的好奇心を満たすための支援活動及び、東京理科大学と神楽坂商店街との交流を深めることを目的として発足し、現在に至っている。 毎月1回同窓生並びにその友人、神楽坂の人々に参加を呼びかけ「PORTA神楽坂サイエンスカフェ」を理窓会倶楽部で開催する。カフェの講話は理大OBによる科学を基本にし、神楽坂由来のテーマも積極的に取り入れる。 カフェにはお茶とお菓子を提供するがすべて神楽坂の店から調達している。			
	(2023年度活動状況) コロナで活動停止の時期は、幹事全員と重要支持者数名を交えて毎月1回サイエンスカフェ ZOOM会議を開催していた。コロナ明けの2023年1月PORTAの利用が人数制限を伴い解除され、サイエンスカフェを再開した。5月からは人数制限も解禁され、3年前と同じシステムで開催されたが、3年の間に体調を損ねた方が多く、参加者数は2割程減少して30~40人レベルであった。これを補うために、ZOOMを併設して開催している。講師の方々は初めの4カ月はコロナで突然中止になった先生方を再招請してご出演いただいた。その後は地理的表示保護制度推進の生越由美理大教授、神楽坂のまち飛びフェスタ実行委員長日置圭子氏、野口医学研究所創立者の浅野嘉久氏(理大OB)、リニア中央新幹線の開発者大石不二夫氏(工博)、オーストリア・ウィーン在住のガイドIpp常子氏のハプスブルグ家に関わる話をお話しいただいた。それぞれ大変好評であった。			
	(2024年活動計画) 2024年5月にはサイエンスカフェ開催第100回を迎える。今年度の最大の目標は参加者数の拡大である。これはスタッフが友人知人の勧誘を積極化することで対応してゆく。 もう一つの最大目標は幹事の若返りである。幹事の殆どが75歳以上で高齢化が進んでいる。若い幹事スタッフを勧誘して若返りを図り、世代交代が可能な状態にする事である。			